

ハートフル

タウン

Heartful Town 笛吹

～ 優しさあふれるまち ～

市長就任から現在まで

二期8年のあゆみ

山下政樹
市長



ごあいさつ



平成28年10月に市長に就任してから、早くも8年が経過し、その間に多くの挑戦と成果を積み重ねてきました。この後援会だよりを作成するにあたり、市民の皆様と共に歩んできた道のりを振り返り、改めて皆様からのご支援の大切さを実感しております。

この8年間、私たちは「桃・ぶどう日本一の郷」を守るため、様々な対策に取り組んできました。特に「モモせん孔細菌病防除対策」では、地域農業を支えるために徹底した防除策を実施し、農家の皆様への支援を行いました。その結果、多くの農家の皆様が安定した収穫を実現し、地域の農業が守られました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響に対しては、市民の皆様の健康と命を守る取組を最優先としつつ、市民生活と経済の支援にも注力しました。給付金や支援策を通じて、困難な時期を乗り越える手助けをし、地域の経済と生活の安定を図りました。特に、大学生やひとり親世帯への支援、学校給食費の無償化など、直接的な支援策を講じることで、多くの市民の生活を守ることができたと自負しています。

さらに、「幸せ実感 ころろ豊かに暮らせるまち」を実現するために、子育て支援や高齢者支援の強化、教育の質の向上など、全ての世代が安心して暮らせる環境づくりに取り組んできました。保育所の充実や医療支援、教育環境の整備を進めるとともに、高齢者の皆様に対しても、健康維持や社会参加の支援を行いました。その結果、市民の皆様からも高い評価をいただき、地域全体がより豊かに成長しました。

「幸せ実感 にぎわいあふれるまち」の実現に向けては、観光振興策や商工業者支援を通じて地域経済の活性化を図りました。地域のビジネスチャンスを生み出し、地域の魅力を最大限に引き出す施策を実施することで、市内の経済が活性化し、地域全体の発展につながりました。

「幸せ実感 100年続くまち」の実現に向けては、『防災新時代 命を守るまちづくり』として、自助、共助、公助の役割を明確にし、それぞれが機能する仕組みづくりを行うなど、安全安心なまちづくりを進めました。また、将来を見据えた行財政づくりにより財政基盤を強化したほか、AI等の新たな技術を活用した取組などを行い、市民の皆様の利便性向上を図りました。

これからも、これまでの成果を礎に、更なる発展を目指してまいります。市民の皆様と共に歩む笛吹市の未来を、引き続き全力で支えていく所存です。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市の財政状況の推移

借金(市債残高)の推移

Point!

市長就任後(H28.10～)から

8年連続借金減!

平成28年度
～令和5年度

約152億円削減



※市債残高には、臨時財政対策債と言って、本来ならば地方交付税として自治体に現金で交付されるべきものが、国の財源が不足しているため、不足分の一部を自治体が借り入れる地方債が含まれています。臨時財政対策債は、後年度において、その元利償還金の全額が地方交付税として国から交付されるため、実質的には地方交付税と言えるものです。

この臨時財政対策債 121 億円を除いた、令和 5 年度の市債残高は 417 億円(538 億円 -121 億円)となります。

貯金(基金残高)の推移

Point!

平成28年度
～令和5年度

約37億円増加



市の将来像実現に向けた施策

市の将来像「ハートフルタウン笛吹～優しさあふれるまち～」の実現に向けてこれまで重点的に取り組んできた事業(現在進行中の事業も含む)について、その一部を紹介します。

幸せ実感 こころ豊かに暮らせるまち

施策1 子育てしやすいまちづくり

「保育所の民営化事業」

民間保育園の保育理念や発想力を活かして保育サービスの更なる充実を図るため、指定管理施設である市立保育所の民営化を推進しています。

八代御所(H30年度～) 石和第三(H30年度～)
御坂北(R2年度～) かすがい東(R5年度～)

「子育て世帯住宅取得補助事業」

市内の子育て世代の移住・定住を促進するため、中学生以下の子どもがいる世帯がローンを組み、市内に住宅を取得する場合に補助金を支出しています。

補助額 新築：300,000円/件 中古：250,000円/件

「病児・病後児保育事業」

令和3年5月に市内で初となる病児・病後児保育所(一宮温泉病院内：そらいろ)が開所され、その開設・運営に係る経費の一部を補助しました。

【開所した病児・病後児保育所】



「子どもすこやか医療費助成事業」

子育て支援の一層の強化を図るため、医療費助成の対象年齢を15歳から18歳に拡大しました。

「市立保育所完全給食化事業」

子育て世帯の負担軽減を図るため、市立保育所で3歳以上児に主食の提供を始めました。

【市立保育所の給食時の様子】



「国民健康保険税 18歳以下均等割減免事業」

子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、国民健康保険税の均等割保険税について、軽減の対象が未就学児までとされている5割軽減を市独自に18歳以下まで拡大しました。

施策2 誰もが安心して暮らせるまちづくり

「アクティブシニア応援事業」

高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、友人や仲間と一緒に、健康づくりや趣味活動を行う団体を立ち上げる際の費用の一部を助成する制度を創設しました。

補助率及び補助限度額：補助対象経費(団体設立の備品購入費、広報活動の経費)の5分の4以内、50,000円を限度

「高齢者ごみ出し支援事業」

高齢者の日常生活における負担軽減を図るため、シルバー人材センターのワンコインサービスを利用して可燃ごみの搬出をした場合の費用の一部を助成する制度を創設しました。

助成額：1回 250円

(ワンコインサービス 500円の2分の1を助成)

「後期高齢者人間ドック助成事業」

後期高齢者の健康寿命を延ばすことを目的に、人間ドック受診に係る費用の一部を助成する制度を創設しました。

助成額：男性 2万円 / 女性 2万2千円

施策3 人と文化を育むまちづくり

「釈迦堂遺跡博物館リニューアル事業」

(令和2年6月リニューアルオープン)

笛吹市と甲州市が共同で運営している釈迦堂遺跡博物館が開館30周年を迎えるに当たり、施設の改修及び機能強化を行いました。

「教育支援センター事業」

不登校児童生徒の集団生活への適用や学力の補充に係る指導等を行い、在籍する学校への復帰や社会的自立を支援するため、令和4年4月に笛吹市教育支援センター「ステラ」を開所しました。

【ステラの教室の様子】



「浅川中学校校舎等改修事業」

(令和5年4月供用開始)

浅川中学校の施設の老朽化に伴い、安全・安心な学校施設を整備するため、校舎本体の長寿命化改修工事等を行いました。

幸せ実感 にぎわいあふれるまち

施策1 再び訪れたくなるまちづくり

「モモせん孔細菌病防除対策事業」

令和元年に市内の広範囲の圃場においてせん孔細菌病がまん延したことから、日本一の桃の産地を守るため、薬剤費の補助、地域ぐるみの一斉防除などに努めました。令和3年からは被害がほとんどみられていません。

「新道峠展望台整備事業」

富士山、河口湖及び山中湖の眺望スポットである新道峠に、令和3年7月に展望台「FUJIYAMA ツインテラス」を整備しました。また、魅力の向上を図り、多くの方に何度でも訪れていただけるよう、令和6年4月、すずらん群生地駐車場に観光案内所や飲食物の提供、地産品の販売スペースを備えたエントランス施設「Lily Bell Hütte(リリーベルヒュッテ)」をオープンしました。

【FUJIYAMAツインテラスからの眺望】



「笛吹みんなの広場整備事業」

(令和3年11月供用開始)

石和温泉駅の南側に位置する2.5haの一団の土地を、「さまざまなイベントが開催できる緑豊かな公園」として整備しました。憩いの場としてはもちろんのこと、様々なイベントを通じた賑わいの場として広く活用されています。

【大勢の方で賑わう笛吹みんなの広場】



「笛吹みんなの広場及びさくら温泉通り賑わい創出事業」

笛吹みんなの広場と石和温泉街のメインストリートであるさくら温泉通りを一体的に活用し、賑わいを創出しています。さくら温泉通りの桜174本に55万球のLED電球を装飾。宿泊や飲食、周遊観光などの新たな需要が喚起され、地域消費の拡大を図っています。

【さくら温泉通りのイルミネーション】



「世界農業遺産活用事業」

令和4年7月に、峡東地域の果樹農業システムが世界農業遺産に認定されました。国内外の観光客誘致につなげるため、世界農業遺産をテーマにしたツアーや新たな観光コンテンツを造成しています。

≫ 施策2 実り豊かなブランド農林業づくり

「笛吹市農業塾推進事業」

地域農業の維持と発展を図るため、就農や営農に関する相談や果樹栽培技術などの講習会を開催して、効果的・効率的な農業支援を行っています。

「果実盗難防止システム構築事業」

果実等の農作物を盗難の被害から守り、安心して農業経営が行えるよう、精度の高い監視システムの開発及び実証実験を行い、果実盗難防止システムの構築を図っています。

≫ 施策3 活力ある地域経済づくり

「企業立地促進事業」

地元雇用の創出及び固定資産税増収を目的に、積極的に企業を誘致しています。特に、境川町の「石橋産業導入地区」については、中央自動車道の笛吹八代スマートインターチェンジ、甲府南インターチェンジから10分と好立地にあるため、令和元年10月にエリアの拡張を行いました。

【石橋産業導入地区の企業数】

平成28年度：5社 → 令和6年度：10社

【石橋産業導入地区】



「空き店舗活用促進補助事業」

市内の空き店舗を解消し、にぎわいの創出を図るため、飲食店が空き店舗を利用して新規出店する際にかかる建物改修経費や賃借料に対し、補助金を交付しています。

【補助額】改修費及び看板設置費 2分の1に相当する額
100万円を限度 賃借料 月10万円を限度

≫ 施策4 移り暮らせる魅力あるまちづくり

「ふるさと納税事業」

自主財源の確保を図るとともに、笛吹市の魅力を発信するシテプロモーションにつなげるため、ふるさと納税事業を推進しています。

【令和元年度：2億3,978万円】【令和2年度：14億1,606万円】
【令和3年度：24億7,891万円】【令和4年度：31億6,301万円】
【令和5年度：28億9,177万円】（※令和4年度：全国50位）

「奨学金返還支援事業」

若者の移住定住を促進するため、大学を卒業後、市内に居住し奨学金を返還しながら県内で就労している30歳未満の方を対象に、奨学金返還に係る費用の一部を補助する制度を創設しました。

補助額：年間20万円が上限（最長5年間）

幸せ実感 100年続くまち

≫ 施策1 将来を見据えた土地利用を推進するまちづくり

「都市計画マスタープラン見直し事業」

（令和3年3月改訂）

本市のまちづくりの指針となる「笛吹市都市計画マスタープラン」について、本市を取り巻く社会経済環境、生活環境の変化などを踏まえ、見直しを行いました。

≫ 施策2 安全、安心で災害にも強いまちづくり

防災新時代 命を守るまちづくり

「防災備蓄倉庫整備事業」

避難所を運営する際に、避難生活で必要となる物品を迅速に避難者に供給するため、指定避難所等に防災備蓄倉庫を整備し、いつ起こるか分からない災害に備えています。※令和3年度から5年度にかけて28か所53棟を整備

【整備した防災備蓄倉庫（若彦路ふれあいスポーツ館）】



「地区防災計画及びわが家の災害時行動計画（マイ・タイムライン）策定支援事業」

災害では、自助や共助が大切な役割を果たすことから、万が一の事態が生じた際に備えて行政区における「地区防災計画」の策定を支援しています。また、各世帯で発災時に適切な行動がとれるよう「マイ・タイムライン」の策定を促進しています。

「防災行政無線高度化事業」

災害情報を市民へいち早く、かつ正確に伝達するため、音声、SNS、メール等への一斉配信システムを導入し、情報発信の時間差を解消するとともに、防災アプリの導入に向け取り組んでいます。

》 施策3 活力ある地域経済づくり

「都市公園施設長寿命化事業」

市内 8 か所の都市公園を安全かつ快適に公園を利用できるよう、計画的に公園施設の長寿命化を図っています。



【石和小林公園（令和4年度に整備）】

【八代ふるさと公園（令和5年度に整備）】

「御坂路さくら公園内ふれあい広場改修事業」

近年のキャンプ人気を踏まえ、公園の地形や豊かな自然環境を活かし、より魅力的な公園となるよう、12 区画のオートキャンプ場を整備しました。キャンプ初心者や家族連れでも気軽に楽しむことができます。

【キャンプ場の利用客で賑わう御坂路さくら公園】



「住宅用地球温暖化対策機器設置費補助事業」

地球温暖化問題について市民意識の高揚を図り、温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの有効活用及び普及を推進するため、太陽光エネルギーを利用した住宅用定置型リチウムイオン蓄電池及び住宅用太陽光発電システムを設置する方に対して補助金を交付しています。

「AI デマンド交通事業」

持続可能な公共交通の維持、確保、充実を図るため、令和 6 年 1 月から AI デマンド交通「のるーと笛吹」の実証運行を開始しました。

のるーと笛吹とは…決まった時刻表や運行ルートがなく、利用者からの予約に応じて AI が最適なルートを考えながら運行する新しい乗合交通

【のるーと笛吹の車両】



》 施策4 市民が起点、地域社会を支える協働のまちづくり

「まちづくり推進事業（市民通報システム）」

市民と行政が協働しながら安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民がスマートフォンなどから市内の道路の陥没、公園遊具の破損などの情報を、画像や位置情報とともに市に通報する「市民通報システム」を導入しました。

》 施策5 将来を見据えた行財政づくり

「業務効率化事業」

総合計画に基づくまちづくりの着実な推進に向け、安定的な財政基盤の確立や、最小の経費で最大の効果を上げるよう取り組む必要があることから、将来を見据えた行政改革を進めています。その一環として、市役所の業務プロセスや処理時間を可視化する業務分析を実施し、その結果を受け、組織や業務の効率化及び経費削減に取り組んでいます。

「窓口業務 DX 事業」

及び「キャッシュレス決済導入事業」

窓口に来庁された方の負担を軽減するため、申請書等を書かなくても手続きができる「書かない窓口」や、証明書発行に関わる手数料の支払いを現金以外でも支払えるようにする「キャッシュレス決済」に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症や 物価高騰等に関連する事業

国や県が打ち出した支援策を整理した上で、国や県の支援が届かない方々、支援を手厚くする必要がある方々に手当てすることとして、独自の支援を行ってきました。その一部を御紹介します。

「大学生等学業継続支援事業」

学費や生活費に困窮している大学生などを経済的に支援するため、10万円を給付しました。

「事業者支援金給付事業」

コロナ禍において、厳しい経営状況が続いている、公共交通事業者、観光関連事業者へ支援金を給付しました。

「市内の小中学校、保育所、幼稚園の給食費無償化」「市内保育園等の副食賄材料費の高騰分を支援」

コロナ禍における原油価格や食費、電気、ガス料金を含む物価高騰の影響を受けた市民等を支援しました。

「ハートフルタウン笛吹！商品券事業」

全市民に市内事業所及び店舗等で利用できる1万円分の商品券を配布しました。

第1弾（令和3年度） 決算額：6億5,362万円

第2弾（令和4年度） 決算額：7億2,543万円

「笛吹市消費喚起キャンペーン事業」

QRコード決済を買い物等に利用した際に、利用者に最大30%のポイントを還元しました。

第1弾（令和3年度） 決済総額：19億円

登録店舗数：806店舗

第2弾（令和5年度） 決済総額：37億円

登録店舗数：1,045店舗